

第3回「知床遊覧船事故対策フォローアップ委員会」議事概要

日 時：令和7年10月6日（月）10：00～12：00

場 所：合同庁舎3号館4階 幹部会議室

出席委員：山内委員長、河野真理子委員長代理、安部委員、梅田委員、
加藤委員、河野康子委員、小松原委員、庄司委員、高橋委員、
田中委員、中山委員、野川委員、眞嶋委員、南委員

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- 実効性の確保が課題。旅客船の総合的な安全・安心対策の66項目の実施件数を追いかけるだけではなく、実施したものの実効性が確保できているのか、利用者目線で対策が進められているか、安全意識を業界全体でどう育むのかという観点も必要。
- 安全を確保することについて、設備投資や船員確保にコストがかかるということを経営者サイドが十分に理解し、安全への投資を行っていくことが必要。また、利用者もその旨を理解し、価格への反映を受け入れることも必要。
- 説明用動画（救命いかだ、特定教育訓練）やうみマガは分かりやすくてよい。視聴対象者や視聴のさせ方など活用の仕方を検討し、引き続き対策を進めていただきたい。
- 知床遊覧船事故の原因が高波だったというような報道を目にするが、本当の事故原因はそれ以外のところにもあり、このような対策が講じられていると理解している。なぜこのような対策が講じられているか、事故原因とともにしっかりと伝える必要がある。
- ダイビング船の安全対策ガイドラインが作られたのはよいこと。海上運送法の適用か否かにはかかわらず、旅客が乗船する船での事故を減らすことが重要。
- 昨今の気象悪化等を踏まえ、陸上施設を含めて、点検頻度や方法について、従来どおりでよいのか再検討が必要ではないか。
- 事故のリスクをゼロにすることはできないが、毎年のフォローアップをしっかりと行うことで、旅客船の安全・安心対策に取り組んでいただきたい。

以上